

## 近畿産業考古学会

The Kinki Industrial Archaeology Society

## 第139号

## 目次

1. 「畝傍駅の130年を振り返る連続講演会」のお知らせ  
..... 1
2. 次回見学会（予告）..... 2
3. 2024年度年次大会（予告）..... 2
4. 学会誌『近畿の産業遺産』第19号 原稿募集..... 2
5. 「津田電線と伏見・電気事業関連遺産の見学会」見学記  
..... 寺島俊之・二階堂達郎..... 2
6. 【出版物紹介】『絵葉書で訪ねる西ヨーロッパの橋』  
..... 3
7. 学会誌の電子ジャーナル公開について..... 3
8. 2023年度第6回役員会議事録..... 4
9. 2024年度第1回役員会議事録..... 4
10. 会員計報..... 4

## 「畝傍駅の130年を振り返る連続講演会」のお知らせ

JR 畝傍駅舎は、今年2月の橿原市長による無償譲渡の受け入れ表明を受けて、保存活用に向けて動きがはじめています。これを機会に、地元で、畝傍駅について多面的な理解を深めるため、連続講演会が開催されます。本会も開催に協力し、中山会長が最初の講演を担当します。

## ■第1回講演会

日時：9月16日（月・祝日）

13:00 開場、講演 13:30～15:30（質疑応答、約30分）  
16:00 終了

会場：橿原分庁舎「ミグランズ」 4F コンベンションルーム

〒634-0804 奈良県橿原市内膳町1丁目1-60（「カンデオホテルズ奈良橿原」）

講師：中山嘉彦氏（近畿産業考古学会 会長）

講演題目：「畝傍地方の鉄道史 -各路線・各駅の変遷-」

## ■第2回講演会

日時：10月20日（日）

13:00 開場、講演 13:30～15:00（質疑応答、約30分）  
15:30 終了

会場：内膳町すみれホール 5階大会議室

〒634-0804 奈良県橿原市内膳町1丁目2-24

講師：北山峰生氏（奈良県立橿原考古学研究所 調査第一係長）

講演題目：「畝傍と橿原をめぐる近代史」

主催：NPO 法人八木まちづくりネットワーク、NPO 法人  
大和八木まち創り会

協力：近畿産業考古学会

※申込不要、入場無料（先着順）。詳細はチラシ（HP  
（<https://yagimachi-net.jp/>））をご覧ください。

現在の畝傍駅舎は1940（昭和15）年開催の紀元2600年大祭に合わせ、畝傍御陵に参拝する皇族や参拝者の乗降駅として建て替えられた。駅舎は白木造を主とし、皇室用の貴賓室や団体客待合室も設置されている。外観も、屋根に大和棟洋式や破風・葺き下ろしを採り入れるなど、奈良で開催される国家行事を担うにふさわしい風格のある建造物となっている。

畝傍駅は、1893（明治26）年に、大阪鉄道が高田駅-桜井駅間を延伸した際に開業した。これにより、奈良盆地と大阪とを結ぶ鉄道路線が確保され、その後、関西鉄道への譲渡や国有化を経て、現在の桜井線（「万葉まほろば線」）に至っている。戦後、自動車輸送が普及するまで、旅客・貨物輸送の主役となっていた。同駅舎は、一時期、木材の生産地・吉野と集散地・桜井を結ぶ吉野鉄道（のちの近鉄小房線）の起点にもなっていた。

同駅舎の開設は八木町の構造も大きく変え、中心が中街道（下ツ道）沿いから駅前に移行した。また、国道15号が、奈良から町内の同駅付近まで延伸され、橿原神宮・畝傍御陵の参拝路と繋がれた。この国道は、戦後、国道24号となり、奈良県内を縦断する重要な幹線道路となっている。

奉祝事業として、橿原神宮や畝傍御陵の整備，土地区画整理，鉄道・道路の付け替えや整備，諸施設の建設などが行われた。また，整備事業に伴う遺跡調査を契機に橿原考古学研究所も設立された。



写真1 畝傍駅の全景（提供：稲上文子氏，周囲をカット）



写真2 畝傍駅の構内（撮影：2015/03/06）

### 「旧摩耶観光ホテルの見学会」（予告）

開催日：10月12日（土）

集合：摩耶ケーブル線「摩耶ケーブル」駅，13：00

主な見学先（予定）：旧摩耶観光ホテル（登録有形文化財），神戸市立王子動物園，旧ハンター住宅（重要文化財，動物園内），神戸文学館（旧関西学院ブランチ・メモリアル・チャペル，登録有形文化財），岩屋臨港線跡など  
詳細は次号でご案内します。申込は，必ずその後をお願いします。

### 2024年度年次大会（予告）

開催日：12月7日（土），午前中：見学会，午後：特別講演会・研究発表

会場・見学先：未定

### 学会誌『近畿の産業遺産』第19号 原稿募集

『近畿の産業遺産』第19号の原稿を募集します。多くの会員の投稿をお待ちしています。奮ってご応募下さい。資料の紹介など，論文形式ではないものでも結構です。

・申込締切日：

論文（査読付き）；2024年12月31日

調査報告・研究ノートなど，論文以外；2025年2月28日

### 「津田電線と伏見・電気事業関連遺産の見学会」見学記

寺島俊之・二階堂達郎

7月7日（日）に頭記の見学会を開催した。

#### 【見学先と見学行程】

①津田電線株式会社・資料室（通常非公開）：13：30～15：00

②電気事業関連遺産：「電気鉄道事業発祥の地」石碑，京都電気鉄道軌道跡，旧京都電灯・伏見第二火力発電所（現モリタ製作所），三栖開門・同資料館（近代化産業遺産）

③オプション見学：津田電線踏切（京阪電鉄橋本駅）

京阪電鉄「中書島」駅北改札に12：40に集合。あいにくの猛暑日となったが，参加者は14名，オプション見学は4名であった。

「中書島」バス停より京都市バスに乗りし，「府道横大路」バス停で下車。一帯は府道京都守口線（旧京阪国道）と都市計画道路である外環状線との交差点に近く，物流センターや工場が立ち並ぶ地域であった。津田電線株式会社の本社で，執行役員・人事総務部長である杉本登志人様に出迎えて頂き，会議室で概要説明を受け，資料室を見学する。同社は，今年（2024年）に，製造部門を久御山工場から伊賀工場（三重県）へ全面移転し，本社も京都市伏見区に移したばかりである。

同社は，1854（安政元）年，京都高野川沿いで水車動力を用いた銅のダイス伸線を開始して以来，江戸時代末期から現在まで事業を継続している電線メーカーである。

電線は，その用途によって「電力用」・「通信用」・「巻線」に大別される。わが国では通信用の利用が先行し，早くも1868（明治元）年に横浜・東京間の公衆電信が始まっている。電信機には国産の絹巻き銅線が使用され，銅線の製造技術は十分に熟達していたと考えられる<sup>(\*)</sup>。

これに対し絶縁性が求められる電力用電線では国産品は技術的に立ち後れ，明治期を通してようやく欧米と太刀打ちできるようになるまでになった<sup>(\*)</sup>。津田電線もこの時期に，裸銅線・木綿皮膜線・ゴム皮膜線の開発と製造を進め，銅伸線から電線へと事業転換を果たした。この間，京都市水利事務所や京都電燈や各地の電燈会社に電線を，京都電気鉄道にはトロリー線・送電用撚線を納品しており，これらの顧客との取引が技術革新や事業展開に大きな影響を与えた。

資料室は文書資料が主で，戦前のもものでは，各工場の図面や写真，作業風景や設備の写真，はがき・書簡・証書類などからなり，とくに京都電気鉄道関係の文書一式は目を惹いた。実物資料には，坩堝や棹銅，電線・ケーブルのサンプルなどからなる。大典記念京都博覧会（1915（大正4）年）に出展されたサンプルには，導体を絶縁体で被覆し，その外側をシース（外皮）で保護したケーブルが見られる。大正期には今日の電線の基本的な構造（伸線・撚り線，絶縁・シース）は概ねできあがっていたことが推測できる。

予定どおり15：00に退出して，同社が電線製造事業に乗り出す契機となった電気鉄道と発電・配電関連事業の遺



構の見学に向かう。

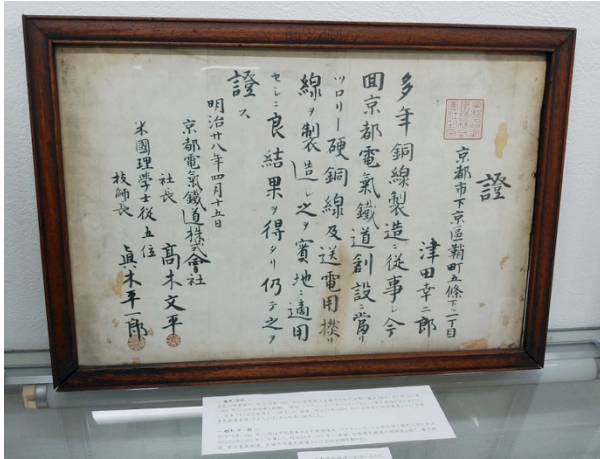


写真 京都電気鉄道発行の品質認定書の原本  
(1895(明治28)年) (撮影：寺島俊之)

市バスに乗り「京橋」バス停で下車。京都電気鉄道の起点(伏見下油掛)に建つ「電気鉄道事業発祥の地」石碑を見学する。その後、見学資料の「伏見火力発電所群の配置図」(下図)を参考にしながら旧伏見第二発電所(モリタ製作所)など「中書島」駅の西側一帯を回った。三栖閘門・資料館では、同閘門や伏見港の変遷などの展示を見学した。なお、同閘門の門扉開閉は電動機(明電舎製)で行われ、伏見第二火力発電所から受電していた。

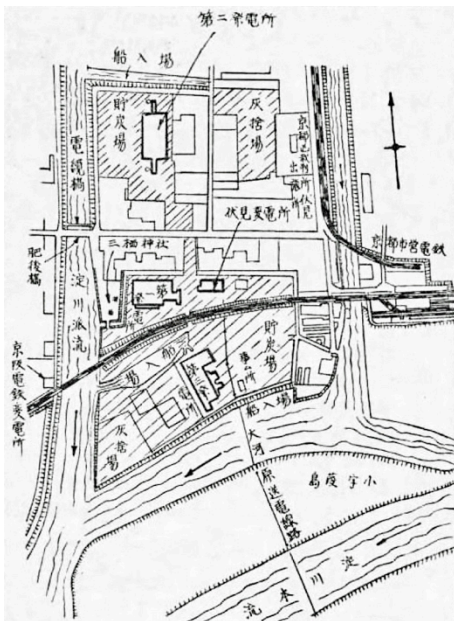


図 京都電燈  
伏見火力発電  
所群の配置図  
(日本動力協  
會編纂『日本  
の発電所 中  
部日本篇』工  
業調査會,  
1937年より)  
旧伏見港の  
西側に第1~  
3火力発電所  
が集積してい  
た。

16:40に「中書島」駅で解散し、4名は津田電線八幡工場跡を見学するため京阪橋本駅まで移動する。同工場は1912(大正元)年から1971(昭和46)年まで操業し、電線皮膜加工を専門に行っていた。工場の遺構は確認できなかったが、現存する「津田電線」踏切道から位置関係を推測できた。なお、社宅跡の住宅地は区画のみ往時を引き継いだ可能性ありと会長よりコメントがあった。

今回の見学会の開催にあたり杉本登志人様にはお世話になりました。厚く御礼申し上げます。

(\*) 日本電線工業会編『電線史』日本電線工業会、1959.7.

## 【出版物紹介】

### 『絵葉書で訪ねる西ヨーロッパの橋』

(編著、出版：中元雄治)



本書は、西ヨーロッパの橋をテーマに、約20年間の研究・調査の成果を、絵葉書という形式で紹介している。西ヨーロッパの橋は、その歴史・文化・芸術の宝庫であり、その魅力を伝えるために、本編では、約20年間の研究・調査の成果を、絵葉書という形式で紹介している。西ヨーロッパの橋は、その歴史・文化・芸術の宝庫であり、その魅力を伝えるために、本編では、約20年間の研究・調査の成果を、絵葉書という形式で紹介している。

今回から「絵葉書で訪ねる橋」シリーズの海外編である。主に編著者が所蔵する絵葉書によりローマ期から中世暗黒期、ゴシック期、ルネッサンス期、アールヌーヴォ期など2000年代初期までに架けられた西ヨーロッパの橋の絵葉書を470葉掲載している。

(A4・64ページ、フルカラー、2024年6月20日発行)  
代金(1部)：1,600円、送料250円。支払方法：切手申込・問い合わせ先：[E-mail] y52749n@yahoo.co.jp

### 学会誌の電子ジャーナル公開について

科学技術振興機構(JST)より提供された2024年3~6月分のアクセス統計(クローラーによるアクセスを除外)の概要です。

- 2024年3月(公開論文数:26):
  - 書誌事項へのアクセス数:合計275回
  - 全文PDFへのアクセス数:合計301回
  - (アクセス数が最も多かった論文:書誌事項;30回,全文PDF;69回)
- 2024年4月(公開論文数:26):
  - 書誌事項へのアクセス数:合計302回
  - 全文PDFへのアクセス数:合計437回
  - (アクセス数が最も多かった論文:書誌事項;34回,全文PDF;86回)
- 2024年5月(公開論文数:26):
  - 書誌事項へのアクセス数:合計221回
  - 全文PDFへのアクセス数:合計444回
  - (アクセス数が最も多かった論文:書誌事項;28回,全文PDF;65回)

- ・2024年6月（公開論文数：26）：  
書誌事項へのアクセス数：合計 299 回  
全文PDFへのアクセス数：合計 426 回  
（アクセス数が最も多かった論文：書誌事項；51 回、  
全文PDF；50 回）

### 2023 年度第 6 回役員会議事録

日時：2024年3月13日(水)，19：05～20：30，オンライン開催（当初3月6日(水)開催予定を変更）  
参加者：中山会長，岡田副会長，貝柄幹事，寺島幹事，二階堂幹事，溝口幹事，若林幹事  
議事：

1. 前回役員会議事録の承認
2. 2024 年度総会  
会場，日程，役員異動，見学先を確認，  
特別講演；竹村忠洋氏（芦屋市教育委員会）に依頼。  
研究発表を埋蔵文化財研究者に打診。見学会（午前）行程案：阪急「芦屋川」駅（9：30 集合）→ヨドコウ迎賓館見学→JR「芦屋」駅（途中，文化財見学）→JR「さくら夙川」駅→大手前大学史学研究所
3. 2024 年度総会開催・議案議決方法  
会則の変更を経た上で，書面による総会議決を行う。  
会長が会則改正案を作成し，役員回覧で諮る。会員への周知を徹底する。書面議決の手順を確認。
4. 会計監査（報告）
5. 見学会  
①ボイラー工場（サツパボイラ），②醸造酢工場（ミヅホ株式会社），③津田電線，④住友銅吹所遺構を打診。
6. 学会誌 18 号原稿募集  
掲載予定原稿：講演記録（和田氏，久岡氏），白木会員
7. 学会誌 17 号原稿  
出稿準備中。
8. 学会誌電子ジャーナル公開（報告）
9. ニュースレター 137 号  
4 月初めに発行予定。
10. 調査・研究について（報告）
11. その他  
大阪・京都の伸線業，大阪のボイラー製造業，神戸海軍操練所，研究発表，役員改選などをめぐり討議。  
次回役員会：5 月の水曜日を目処に役員改選後に決定。

### 2024 年度第 1 回役員会議事録

日時：2024年5月15日(水)，19：00～20：25，オンライン開催  
参加者：中山会長，岡田副会長，貝柄幹事，寺島幹事，二階堂幹事，溝口幹事，若林幹事  
議事：

1. 前回役員会議事録の承認
2. 2024 年度総会議決  
会則変更議案：出席者 15 名＋委任状提出者 16 名＝合計 31 名。全員が賛成  
他 5 議案：はがき 12 名＋メール 18 名＋はがき・メール 2 名＝合計 32 名。全員が全議案に賛成。
3. 2024 年度役員体制  
2023 年度と同じ体制とする。
4. 見学会  
実施日：6 月 15 (土) または 22 日 (土)，集合：京阪本線中書島駅北改札口。中書島バス停でバスに乗車。  
主な見学先：津田電線株式会社・資料室，京都電燈伏見第二火力発電所，三栖閘門・同資料館。  
他の見学先候補：ボイラ工場，醸造酢工場，住友銅吹所遺構
5. 2024 年度年次大会  
未定。候補が挙がる。
6. 学会誌 19 号原稿  
申込締切日：論文（査読付）2024 年 12 月 31 日，論文以外 2025 年 2 月 28 日。  
会長より伸線業を特集する提案が出された。
7. 学会誌 17，18 号原稿  
17 号は近日中に完成予定。刊行後，18 号編集開始。
8. 学会誌電子ジャーナル公開（報告）
9. ニュースレター 138 号  
5 月中・下旬に発行予定。
10. 調査・研究について（報告）
11. その他  
阪堺電気軌道モ 161 形電車をめぐり意見交換。  
次回役員会（対面）：7 月の土曜日。日時は回覧で決定。

### 会員計報

角山幸洋氏が逝去されました（ご家族から連絡をいただきました）。氏は，本会設立時から長年にわたって，会に所属されてきました。本会名簿では，「関心をおもちの分野として染織史」を挙げておられました。  
謹んで哀悼の意を表すとともに，ご冥福をお祈り申し上げます。

2024年7月30日発行  
編集 近畿産業考古学会 編集委員会  
発行 近畿産業考古学会 会長 中山嘉彦  
URL : <http://kinias.jp>  
事務局 564-8511 大阪府吹田市岸部南2丁目36番1号  
大阪学院大学 経済学部 中山嘉彦研究室気付  
Tel : 06-6381-8434 (代) , Fax : 06-6382-4363 (代)  
E-mail : [kinias-ec@nifty.com](mailto:kinias-ec@nifty.com)  
会費納入先(郵便振替)  
口座番号：00950-9-150085，加入者名：近畿産業考古学会